

| | | | |
|---------------------------|--|----------------------|---|
| <p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> | <p>○一人一人の能力・特性等を最大限に伸ばし、自立と社会参加に向けて、よりよく生きる子どもを育成する。</p> | <p>今年度の 重点目標</p> | <p>①自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成 ②教職員の専門性と授業力の向上 ③教職員の働き方改革の推進 ④安全で安心な学校づくり ⑤家庭・地域とともに取り組む教育の推進</p> |
|---------------------------|--|----------------------|---|

| 評価項目 | 部 | 評価の具体項目 | 年 度 当 初 | | | 評 価 結 果 () 月 | |
|--------------------------|-------|--|--|---|---|---------------|----|
| | | | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 |
| 自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成 | A 部門 | ○児童生徒の強みを活かし主体的に学ぶ力を育てる授業づくり | ○児童生徒一人一人の強みや、それを生かした表出方法や表現力について探り、様々な可能性を考えながら、教職員間で共有していく必要がある。 | ○児童生徒の強みを活かした表出方法や表現力について探る。 ○個々の表出方法や表現力を授業に活かすことができる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答 | ○児童生徒の特性や発達段階、学習状況、生活年齢を総合的に捉えた実態把握を行い、達成感や満足感を味わうことができる学習を準備する。 ○学部研修等による基礎基本事項を徹底し、根拠のある目標設定や学びの積み上げがわかる指導の充実を図る。 | | |
| | B 小学部 | ○「次もやってみよう」と、主体的に取り組んだり表現したりする姿へつながる指導、支援の工夫 | ○前年度より、劇やダンス、絵を描いたり、作品を作ったり、中で自由に表現したり、自分なりの方法で伝える姿が見られている。今年度も引き続き、子どもたちの達成感や、主体的に取り組む意欲を育むため、子どもたちの表出や表現する学びの土壌を作っていく必要がある。 | ○児童が学習や生活の中で自分の伝えたいことや表現したいことを自分なりの方法で表出したり、表現したりする姿が見られる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答 ※学習の振り返り場面の様子をとりえて子どもの変容を評価 | ○児童の表現力、表出力を広げるために、児童が意欲をもって取り組むことができる指導・支援の工夫やポイントについて、教職員間でお互いの授業を見合って話し合い授業実践に活かしていく。 | | |
| | B 中学部 | ○表現力の育成を目指した授業づくり | ○前年度に実施した教育課程の見直しと改編をもとに、教科・領域の努力点と年間指導計画の見直し、検討、実践の積み上げをしていく必要がある。 | ○生徒が自分なりの方法で気持ちや思いを伝えることができたり、文化活動において自分から進んで作品制作や身体表現に取り組むことができたりする。 ○授業を通して生徒が言葉やジェスチャーで「できた」「わかった」等の達成感を表現する姿がある。 ※以上の2点について、それぞれ教職員アンケートで8割以上「できた」と回答 ※生徒アンケートや学習の記録から評価 | ○各教科で、生徒一人一人のどんな表現力を育てるのかを明確にして、言語活動や評価場面を設定する。 ○生徒自身が、達成したことを自ら実感できるように、作品の掲示や展示、録画、授業の振り返りシートなど、見える形で記録を残したり、学習グループによっては他者評価を行ったりする。 | | |
| | B 高等部 | ○主体的な進路選択ができるよう、自己選択、自己決定ができる生徒の育成 | ○2、3年生については、ほとんどの生徒が、何らかの方法で自分の意思を指導者に伝えることができている。また、実習等で経験したり、学習したりすることを通して、自らの意思で選択することができつつある。より納得した自己決定できるよう実習や宿泊体験等を積み重ねる必要がある。 | ○自分の気持ちを周りの人に伝えたり、選択の中での意思決定をしたりすることができるような授業づくりや生活の中での経験を積み重ねる。 ※個別の指導計画の中の自己選択、自己決定に関わる目標での達成者が全体の8割以上 | ○教育課程編成で、高等部の育てたい資質や能力の中に自己選択、自己決定を盛り込み、授業や普段の生活で取り組む。 ○現場実習や普段の授業でのふりかえりを大切にして、経験したことに対して、自分の意思を選択、決定できるよう取り組む。 | | |

様式 2

| | | 年 度 当 初 | | | 評 価 結 果 ()月 | | | |
|----------------|-------|-------------------|--|--|---|---------|----|-----------|
| 評価項目 | 部 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 次年度への改善方策 |
| 教職員の専門性と授業力の向上 | 研究部 | ○より良い授業のための基盤整備 | ○昨年度の校内研究で個別の指導計画の新形式案を作成した。しかし、教職員への説明や記入の仕方についての演習が十分でない。 | ○令和4年度から使用する新形式の個別の指導計画の変更点や記入の仕方についての理解が深まる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答 | ○職員会で新形式における変更点についての説明をする。 ○研究の日の時間を活用して、新形式を使用するための演習を行う。 | | | |
| 教職員の働き方改革の推進 | 全体 | ○時間外業務の原因把握と改善 | ○分掌や学部の業務に偏りが生じており、調整していく必要がある。 ○昨年度、月45時間を超えて時間外勤務する実態がある。 ○全体の会議の精選を行っているが、グループ等の会議が多い。 | ○月45時間を超えて時間外勤務する者を0にするように努める。 ※各月ののべ人数が昨年比で減少している。 | ○会議をしない日やノー残業ディを設定し、計画的に勤務をする環境を整えるとともに、勤務簿の自己管理を徹底する。 ○分掌の再編や各自の業務分担を見直す機会を3回設定するとともに、グループ毎の会議や担当者同士の会の精選とスリム化を図る。 | | | |
| | 事務部 | ○課題の把握とその課題に対する解決 | ○マンネリ、前例踏襲で業務を行っている部分があり、カイゼンをする余地がある。 | ○※自分が担当している業務で一つでも課題を見つけ、自分なりの解決策を考え、実行する。 | ○自分の業務で困っていることを、他の事務職員に相談し、課題の共有と解決策を検討する。 | | | |
| | 行事特活部 | ○やりがいのある行事運営 | ○新型コロナウイルス感染拡大防止の為の対応から今後の学校行事の目的・ねらいを改めて考える必要がある。 ○提案が遅くなったり、過密なスケジュールの中で教職員が運動会とくらよう祭の準備をしたりしている。 | ○新型コロナウイルス対策を話し合い、学校行事等が目的・ねらいをもち、行われるように工夫する。 ○学校行事での教職員の負担を軽減し、やりがいのある行事運営に取り組む。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答 | ○三密(密接・密集・密閉)にならないよう工夫し、ICTを活用する。 ○計画にゆとりをもち、十分に児童生徒と関わることができるようにする。 ○教職員それぞれの得意分野を生かしながら準備をし、行事が盛り上げられるようにする。 | | | |
| 安全で安心な学校づくり | 健康安全部 | ○安全・安心への意識 | ○各種訓練、研修会、ヒヤリハット等を通して、教職員の安全で安心な環境づくりに対する意識を高めるよう努めているが、十分ではない。 ○新型コロナウイルスへの対応が必要である。 | ○安全で安心な環境づくりに対する意識を高める。 ○職員間の共通理解のもと、本校の新型コロナ対応基準及びガイドラインに則した対応をすることができる。 ※教職員アンケートで肯定的評価が8割以上。 | ○全校一斉安全点検タイムを設ける。(年3回) ○安全項目チェック表を活用した点検を行う。(年3回) ○職員朝会や研修会などで啓発に務める。 | | | |
| | 教育環境部 | ○より安全・安心な教育環境づくり | ○定期的な掃除道具点検、職員作業により、校舎内外の校内外の環境整備が整った。 ○TEAS報告やエコ点検を定期的に行っているが、エコについての意識があまり高まっておらず、クラスによって取り組みに差がある。点検内容を見直す必要がある。 | ○安全・安心な教育環境づくりを行うとともに、エコに対する意識が高まる。 ※職員作業の実施(年2回) ※掃除道具点検の実施(学期1回) ※水道・電気の使用量が昨年度よりも減少する | ○年に2回職員アンケートをもとに職員作業を計画実施し、安全安心で無駄のない環境づくりを行う。 ○委員会・分掌と連携し、環境、福祉に関する啓発をしていく。 ○電気、水の使用に対する具体的なエコに対する取り組みを示し、掲示板にTEAS報告を載せ、全校への意識づけを行ったり、職員への協力を呼びかけたりする。 | | | |

様式 2

| 評価項目 | 部 | 評価の具体項目 | 年 度 当 初 | | | | |
|--------------------|---------|--|--|--|--|--|------------|
| | | | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | | | 目標達成のための方策 |
| 家庭・地域とともに取り組む教育の推進 | 教務部 | ○本校教育についての理解啓発につながり、指導支援の連携を密にしているための教育活動の発信 | ○定期的にHPで教育活動について発信してきた。HPのリニューアルも行い、より分かりやすいものとなった。 ○コロナ禍において、参観日や学校見学など実際に学習活動を見てもらう機会が激減し、より教育活動の発信が望まれている。 ○臨時休業やコロナ感染症対応のため、長期学校に登校できない状況が起こる可能性がある。その時のためのオンライン教材の活用やオンライン授業ができる体制がまだまだできてい | ○教育活動や学校教育の情報掲載等、ホームページの充実を図る。 ※学部週1回以上のHP更新 ※オンライン教材等の作成、オンライン授業の配信体制作り | ○定期的に情報掲載できるよう各部門、学部で当番制にし、週1回は更新する。 ○夏休みを中心に教職員のICT研修を行い、教職員の意識を高めながら、オンライン教材作成や家庭での学習に役立つアプリの紹介、ダウンロードできるプリント教材のアップなどに取り組む。 ○各分掌の情報が最新のものとなるよう、随時情報のチェックや声掛けを行う。 | | |
| | 支援部(校内) | ○各学部とよりよく連携するための体制づくり | ○学部と連携しながらケース会議等を実施することができるようになってきている。ケース会議等において役割分担があいまいで動きづらいケースがあったので、役割分担を明確にする必要がある。 | ○それぞれのケースに適切に対応できるように、ケース会議等において役割分担を明確にする。 ・ケース会議実施者アンケートで8割以上が「役割分担が明確である」と回答 | ○それぞれのケース担当を校内支援・SSWで分担し、明確にする。 ○ケース会議等において、最後に役割分担を確認し、会議録に残す。 ○PDCAサイクルで支援を行う。 | | |
| | 支援部(地域) | ○自立活動の指導の充実を目指した情報提供 | ○特別支援学級は、毎年クラスや担任の変更があり、初めて支援学級の担任をされる方も少なくない。 自立活指導は、特別支援学級の重要な学習であるが、様々な誤解があり実施するのが難しい現状がある。自立活動の考え方、実態把握、目標の立て方、学習内容の選定等についての情報提供をしていく必要がある。 | ○自立活動についての情報提供ができた。 ・教育相談 ・支援会議への参加 ・研修会講師派遣 ・研修会の開催 ・通級指導教室通信「かけはし」の発行 ・エキスパート教員の公開授業 | ○市町の主任会で地域支援活動の案内やセンター的機能の活用について周知する。 ○OLD等専門員、通級指導教室担当者、市町教育委員会担当指導主事と連携し、情報提供のニーズの把握や情報提供の機会の設定をする。 | | |
| | キャリア教育部 | ○保護者への情報発信 | ○人権教育や進路に関する情報提供をしているが、受け取る側にとって学部や学年段階に合わせた情報提供が必要である。 | ○保護者アンケートで8割以上が「進路や人権教育に関する情報発信ができています」と回答する。 | ○定期的な進路だより(PTA人権教育研修会・公開学習・進路に関する学習等の内容を掲載する)の発行 ○福祉セミナー等での保護者への事業所情報提供 ○学部だよりにより学部に応じた進路情報を掲載する。 ○必要に応じて、視覚的提示資料を基本にした進路説明をする。 | | |

評価基準 A:十分達成[80%以上] B:概ね達成[80%未満～60%以上] C:変化の兆し[60%未満～40%以上] D:まだ不十分 [40%未満～30%以上] E:目標・方策の見直し[30%以下]